

日 本 国 特 許 庁

JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 7月 4日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-196081

[ST.10/C]:

[JP 2002-196081]

出 願 人

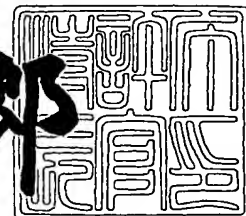
Applicant(s):

富士写真フイルム株式会社

2003年 5月20日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2003-3037544

【書類名】 特許願

【整理番号】 FSP-03637

【提出日】 平成14年 7月 4日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G11B 23/027

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県小田原市扇町2丁目12番1号 富士写真フイルム株式会社内

【氏名】 石原 祐輔

【特許出願人】

【識別番号】 000005201

【氏名又は名称】 富士写真フイルム株式会社

【代理人】

【識別番号】 100079049

【弁理士】

【氏名又は名称】 中島 淳

【電話番号】 03-3357-5171

【選任した代理人】

【識別番号】 100084995

【弁理士】

【氏名又は名称】 加藤 和詳

【電話番号】 03-3357-5171

【選任した代理人】

【識別番号】 100085279

【弁理士】

【氏名又は名称】 西元 勝一

【電話番号】 03-3357-5171

【選任した代理人】

【識別番号】 100099025

【弁理士】

【氏名又は名称】 福田 浩志

【電話番号】 03-3357-5171

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 006839

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9800120

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 記録テープカートリッジ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 記録テープが巻装された単一のリールを回転可能に収容するケースと、

前記ケースの側壁に形成され、前記記録テープの端部に取り付けられたリーダーピンを引き出すための開口と、

前記ケースの天面及び底面に形成され、前記開口の近傍で前記リーダーピンを保持するピン保持部と、

を備えた記録テープカートリッジにおいて、

前記開口から前記ピン保持部に向かって切り込みを設けるとともに、前記リーダーピンの両端部に、その切り込みに挿入される係止部を設けたことを特徴とする記録テープカートリッジ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、主にコンピューター等の記録再生媒体として使用される磁気テープ等の記録テープが巻装された単一のリールをケース内に収容してなる記録テープカートリッジに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来から、コンピューター等のデータ記録再生媒体として使用されている磁気テープを単一のリールに巻装し、そのリールをケース内に収容してなる磁気テープカートリッジが知られている。この磁気テープの先端には、リーダーピンやリーダーテープ、リーダーブロックといったリーダー部材が設けられており、そのリーダー部材をドライブ装置側に設けられた引出手段が磁気テープカートリッジの開口から引き出し、それに固着された磁気テープをドライブ装置側の巻取リールに巻装させるようになっている。

【0003】

また、磁気テープカートリッジの下面に穿設された開孔から現出しているリールの下面中央にはリールギアが環状に刻設されており、ドライブ装置側の回転シャフトに設けられた駆動ギアがそのリールギアに噛合することにより、リールが回転駆動するように構成されている。しかして、磁気テープカートリッジのリール及びドライブ装置の巻取リールを同期して回転させることにより、磁気テープにデータを記録したり、磁気テープに記録されたデータの再生ができる。

【 0 0 0 4 】

このような磁気テープカートリッジは、保存時の収容スペースが小さくて済むとともに大容量の情報を記録でき、リーダー部材のタイプ毎に、開口位置及びその開口を開閉するドアのタイプが異なっている。例えば、リーダーピンを使用するタイプの場合は、図 9 で示すように、ケース 6 2 の側壁 6 4 にリーダーピン 6 0 引き出し用の開口 6 8 が形成されており、ドライブ装置への装填方向（矢印 P 方向）と逆方向にスライド移動するドア 6 6 によって、その開口 6 8 が開閉されるようになっている。

【 0 0 0 5 】

また、ケース 6 2 の開口 6 8 の内側には、不使用時（保管時等）にリーダーピン 6 0 を保持する上下一対のピン保持部 7 0 が設けられている。このピン保持部 7 0 は、リーダーピン 6 0 が出入できるように一部が開放された平面視略半円形状の凹部になっており、図 1 0 （A）で示すように、その凹部（ピン保持部 7 0 ）内に直立状態のリーダーピン 6 0 の両端部 6 0 A が挿入される。

【 0 0 0 6 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、このようなピン保持部 7 0 であると、ケース 6 2 をその開口 6 8 から落下させたときには、図 1 0 （B）で示すように、その衝撃でケース 6 2 が上下外方側へ撓み変形する場合があります、この場合にはリーダーピン 6 0 がピン保持部 7 0 から脱落してしまうおそれがある。

【 0 0 0 7 】

そこで、本発明は、ケースを落下させたときでも、その衝撃によりリーダーピンがピン保持部から脱落することがないようにした記録テープカートリッジを得

ることを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、本発明に係る請求項1に記載の記録テープカートリッジは、記録テープが巻装された単一のリールを回転可能に収容するケースと、前記ケースの側壁に形成され、前記記録テープの端部に取り付けられたリーダーピンを引き出すための開口と、前記ケースの天面及び底面に形成され、前記開口の近傍で前記リーダーピンを保持するピン保持部と、を備えた記録テープカートリッジにおいて、前記開口から前記ピン保持部に向かって切り込みを設けるとともに、前記リーダーピンの両端部に、その切り込みに挿入される係止部を設けたことを特徴としている。

【0009】

このような構成にすると、リーダーピンは開口からピン保持部に向かって設けられた切り込みに係止部が挿入されることによって、ケース（ピン保持部）に係止される。つまり、開口近傍において、リーダーピンは直立状態でケースに架設される。したがって、落下衝撃等により、開口付近のケースが上下外方側へ向かって撓み変形するのを、そのリーダーピンによって抑制することができる。よって、ケースの破損を抑制できるとともに、リーダーピンのピン保持部からの脱落を防止することができる。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態に係る記録テープカートリッジ10を図1乃至図4に基づいて説明する。まず、最初に、記録テープカートリッジ10の全体構成を簡単に説明し、次いで本発明に係る要部について詳細に説明する。なお、説明の便宜上、記録テープカートリッジ10のドライブ装置への装填方向を矢印Aで示し、それを記録テープカートリッジ10の前方向（前側）とする。そして、矢印Aと直交する矢印B方向を右方向とする。

【0011】

図1、図2で示すように、記録テープカートリッジ10は、平面視で略矩形状

のケース 1 2 内に、情報記録再生媒体である記録テープとしての磁気テープ T を巻装した単一のリール 1 4 を回転可能に収容して構成されている。ケース 1 2 は、ドライブ装置への装填方向先頭側の 1 つの角部である右前角部が平面視でそれぞれ斜めに切り欠かれた一対の上ケース 1 6 と下ケース 1 8 とを互いの周壁 1 6 A、1 8 A を突き合せて接合することで構成されており、内部に磁気テープ T を巻装したリール 1 4 の収容空間が設けられている。

【 0 0 1 2 】

また、上ケース 1 6 及び下ケース 1 8 の周壁 1 6 A、1 8 A の切り取られた角部が磁気テープ T を引き出すための開口 2 0 とされ、この開口 2 0 から引き出される磁気テープ T の自由端には、ドライブ装置の引出手段によって係止（係合）されつつ引き出し操作されるリーダーピン 2 2 が接続されている。リーダーピン 2 2 の磁気テープ T の幅方向端部より突出した両端部には、環状溝 2 2 A が形成されており、この環状溝 2 2 A が引出手段のフック等に係止される。これにより、磁気テープ T を引き出す際に、フック等が磁気テープ T に接触して傷付けない構成である。

【 0 0 1 3 】

また、下ケース 1 8 の中央部には、リール 1 4 の図示しないリールギアを外部に露出するためのギア開口 2 6 が設けられており、リール 1 4 はリールギアがドライブ装置の駆動ギアに噛合されてケース 1 2 内で回転駆動されるようになっている。また、リール 1 4 は、上ケース 1 6 及び下ケース 1 8 の内面にそれぞれ部分的に突設されて、ギア開口 2 6 と同軸的な円形の軌跡上にある内壁としての遊動規制壁 2 8 によってガタつかないように保持されている。

【 0 0 1 4 】

この遊動規制壁 2 8 の開口 2 0 近傍の端部には、内部に位置規制用穴が形成された袋部 2 8 A が連設されている。また、ケース 1 2 の左前角部の内側においては、長穴である位置規制用穴が形成された袋部 2 9 が遊動規制壁 2 8 とは離間して設けられている。袋部 2 8 A、2 9 は、矢印 B 方向に沿った一直線上に配置されている。そして、袋部 2 8 A が連設された端部を除いて、各遊動規制壁 2 8 は、それぞれ端部がケース 1 2 の周壁 1 6 A 又は周壁 1 8 A と連設されることで、

その外側とリール 1 4 の設置空間とを仕切っている。

【 0 0 1 5 】

また、下ケース 1 8 の右後部には、各記録テープカートリッジ 1 0 毎に、その各種情報を記憶されたメモリーボード M が設置されるようになっており、下面側から読み取るドライブ装置と、後壁側から読み取るライブラリー装置（複数の記録テープカートリッジ 1 0 を収容し、自動的にドライブ装置に装填・取り出しする装置）での検知が可能となるように、後部内壁 1 8 B が所定角度の傾斜面に形成され、メモリーボード M が支持突起 1 9 により支持されて、所定角度に傾斜配置されるようになっている。

【 0 0 1 6 】

また、下ケース 1 8 の左後部には、その記録テープカートリッジ 1 0 への記録可・不可が設定されるライトプロテクト（図示省略）が設けられるようになっており、ライトプロテクトを操作する操作突起（図示省略）が突出する開孔 1 7 が穿設されている。

【 0 0 1 7 】

また、ケース 1 2 の前壁 1 2 A の右端部には、開口 2 0 の前縁部を規定する上下一対の短い傾斜壁部 3 0 が設けられている。この傾斜壁部 3 0 は、開口 2 0 の開放面に沿って屈曲形成され、開口 2 0 閉塞時に、後述する平面視略円弧状ドア 5 0 の先端がその内側に入り込むことによって、塵埃等が進入できる隙間が生じないようにする防塵壁となっている。そして、傾斜壁部 3 0 の左方近傍の前壁 1 2 A 内側には、上下一対のビスボス 3 2 が連設されている。

【 0 0 1 8 】

一方、ケース 1 2 の右壁 1 2 B（周壁 1 6 A、1 8 A のうち、外面が矢印 B 方向を向く部分）の前端部内側には、平面視でドア 5 0 の外周面に略沿った形状の上下一対の傾斜壁部 3 4 が設けられている。この傾斜壁部 3 4 の前端面が開口 2 0 の後縁を規定しており、その前端部には上下一対のビスボス 3 6 が設けられている。

【 0 0 1 9 】

また、ケース 1 2 の右壁 1 2 B には、ケース 1 2 の内外を連通する窓部として

の所定長さのスリット40が設けられており、後述するドア50の操作突起52の露出用とされている。このスリット40は、右壁12Bを構成する上ケース16の周壁16Aの前側下部を切り欠いて形成され、開口20側へも開放されている。このように、スリット40が周壁16Aの一部を上側に残して形成されると、ケース12の剛性を維持することができるので好ましい。特にスリット40を規定する上側の壁が傾斜壁部34から一体に連設されていると、更に好ましい。

【0020】

また、下ケース18の後方側には、周壁18Aの上端を除く部分が断面視略「コ」字状にケース12の内方へ凹むとともに、ケース12の下面から上方へも凹んだ（底板が切り欠かれた）凹部48が形成されている。この凹部48は、ケース12の左壁にも形成され、例えばドライブ装置の引き込み手段に係合する係合部とされたり、その底面（下向きの面）がドライブ装置内での位置決め用の基準面とされたりするようになっている。

【0021】

また、その凹部48の後方側にも周壁18Aの上端を除く部分が断面視略「コ」字状にケース12の内方へ凹むとともに、ケース12の下面から上方へも凹んだ（底板が切り欠かれた）凹部46が形成されている。この凹部46は、ライブラリー装置の把持手段に係合する係合部とされており、このような凹部46、48を設けることでケース12（下ケース18）の振り強度が向上される。また、上ケース16の左壁の上面部分には、平面視略台形状の凹部44が形成されている。この凹部44は、開口20の開放時、ドア50の開放方向への移動に伴う回転モーメントをキャンセルするための保持部材（図示省略）に係合する係合部とされている。

【0022】

また、上ケース16及び下ケース18において、開口20近傍から遊動規制壁28が最も右壁12Bに接近する部位近傍まで（以下、前半という）と、スリット40の後端近傍から後壁の近傍まで（以下、後半という）、後述するドア50の凸部51を内面側及び外面側の両側方から挟み込むように支持する所定高さ（例えば、1.0mm～1.5mm程度）のガイド壁部42が立設されている。

【 0 0 2 3 】

このガイド壁部 4 2 は、平面視略円弧状に形成されるとともに、上ケース 1 6 と下ケース 1 8 とではその長さが異なっており、上ケース 1 6 側の方が下ケース 1 8 側よりも後半側が長く形成されている。これは、下ケース 1 8 の後部内壁 1 8 B の右壁 1 2 B 側に、メモリーボード M を所定角度で傾斜配置しているからである。

【 0 0 2 4 】

また、ガイド壁部 4 2 の後端部は平面視略円弧状に閉塞されており、ドア 5 0 がそれ以上後方へ移動できないように、上下それぞれ最も後側の凸部 5 1 を規制するようになっている。そして、ガイド壁部 4 2 の前端部はリーダーピン 2 2 の出入時に、そのリーダーピン 2 2 の出入を妨げないような位置（この図示のものは、後述するピン保持部 2 4 よりも後方側で、開口 2 0 の開口幅の約半分程度）まで延設されている。

【 0 0 2 5 】

また、傾斜壁部 3 0 の近傍にも、ガイド壁部 4 2 の延長線上に位置するように、後端部が開放されたガイド壁部 4 1 が立設されている。このガイド壁部 4 1 は、その後端部がリーダーピン 2 2 の出入を妨げないように、後述するピン保持部 2 4 の前端よりも後方側には延設されないようになっており、その間隔（溝幅）は、ガイド壁部 4 2 の間隔（溝幅）よりも若干幅狭になっている。

【 0 0 2 6 】

つまり、ガイド壁部 4 2 の間隔（溝幅）は、ドア 5 0 の成形上のばらつき（曲率のばらつき）を許容するために、若干幅広に形成されており、ドア 5 0 の凸部 5 1 はある程度ガタつきを持った状態でガイド壁部 4 2 内を摺動する。したがって、少なくともガイド壁部 4 1 の間隔（溝幅）をドア 5 0 の凸部 5 1 の幅（後述する突起を含む幅）と略同じ大きさにして、開口 2 0 の閉塞時、その最前の凸部 5 1 がガイド壁部 4 1 内に嵌入されることにより、ドア 5 0 がガタつかずに保持されるようにしている。

【 0 0 2 7 】

また、ガイド壁部 4 1 及び前半のガイド壁部 4 2 は、後半のガイド壁部 4 2 よ

りも若干低くなるように形成されている。すなわち、例えばガイド壁部 4 1 及び前半のガイド壁部 4 2 の高さは約 1 mm に形成され、後半のガイド壁部 4 2 の高さは約 1.5 mm に形成されている。これは、開口 2 0 に、リーダーピン 2 2 をチャックして引き出すドライブ装置側の引出手段が入り込めるスペースを確保するためである。したがって、後述するように、ガイド壁部 4 1 及び前半のガイド壁部 4 2 が低くなっている分、その前半部分（少なくとも開口 2 0 を閉塞する部分）のドア 5 0 の板幅（高さ）が、大きく（高く）なるように形成されている。

【 0 0 2 8 】

更に、上ケース 1 6 内面及び下ケース 1 8 内面には、その開口 2 0 から露出している外側のガイド壁部 4 2 と一体になって平面視略台形状をなすリブ 3 8 が、そのガイド壁部 4 2 と同等の高さになるように立設されており、このリブ 3 8 によって開口 2 0 部分における上ケース 1 6 及び下ケース 1 8 の強度が確保されるようになっている。

【 0 0 2 9 】

以上のような上ケース 1 6 と下ケース 1 8 は、開口 2 0 の縁部近傍に位置する各ビスボス 3 2、3 6 に下側から図示しないビスがねじ込まれて固定（接合）される構成である。これによって、傾斜壁部 3 0（前壁 1 2 A）及び傾斜壁部 3 4（右壁 1 2 B）の各自由端によって規定され、強度的に不利で落下によって地面等に衝突しやすい開口 2 0 両端のコーナー部は強固に接合され、ケース 1 2 を落しても、記録テープカートリッジ 1 0 全体の重量で変形したり、座屈して位置ズレしたりしにくい構成である。なお、周壁 1 6 A、1 8 A の付き合せ面（開口 2 0 両側のコーナー部）を溶着によって固定してもよいが、分解性やリサイクル性を考慮すると、ビス止めの方が望ましい。

【 0 0 3 0 】

そして、この開口 2 0 は遮蔽部材としてのドア 5 0 によって開閉されるようになっている。ドア 5 0 は、ガイド壁部 4 1 と前半のガイド壁部 4 2 を摺動する部分（少なくとも開口 2 0 を閉塞する部分）の板幅（高さ）が開口 2 0 の開口高さと同様に形成され、それより後側が若干小さく（低く）形成されるとともに、その板長が開口 2 0 の開口幅よりも充分大きく形成されている。そして、所定の

円周に沿って移動できるように、板厚方向に湾曲した平面視略円弧状に形成されている。

【 0 0 3 1 】

また、ドア 5 0 の湾曲した長手寸法は、その後端部が開口 2 0 の閉塞状態において、ケース 1 2 の凹部 4 8 よりも後方の（凹部 4 6 近傍の）右後角部内に位置するように決められており、ドア 5 0 の後下部は、下ケース 1 8 の後部内壁 1 8 B 側に所定角度で傾斜配置されたメモリーボード M を回避するために、斜めに切り欠かれている。そして、ドア 5 0 の先端部（前端部）内面及び／又は外面は、ガイド壁部 4 1 にスムーズに入り込めるようにテーパ面に形成されることが好ましい。

【 0 0 3 2 】

また、そのドア 5 0 の上面及び下面には、ガイド壁部 4 1 及びガイド壁部 4 2 のガイド面（互に対向している内面）と、ガイド壁部 4 1 及びガイド壁部 4 2 間の上ケース 1 6 内面及び下ケース 1 8 内面にそれぞれ当接して、ドア 5 0 を開口 2 0 の開閉方向に案内する凸部 5 1 が突設されている。この凸部 5 1 は、ドア 5 0 の長手方向に沿って長い平面視略楕円形状に形成され、上面及び下面にそれぞれ 4 つずつ、最も後側の凸部 5 1 を除いて上下対称に、かつ、ガイド壁部 4 1 及びガイド壁部 4 2 の高さと同等の高さ（例えば、ドア 5 0 の板幅が異なる境界部分より前側は約 0.5 mm、後側は約 1.5 mm）になるように突設されている。なお、最後側の凸部 5 1 が上下対称でないのは、ドア 5 0 の後下部が斜めに切り欠かれていることによる。

【 0 0 3 3 】

また、この凸部 5 1 の先端は断面視（側面視）略円弧状になるように形成され、更に、その両側面には平面視略円弧状あるいは平面視略三角形状等の突起（図示省略）が凸部 5 1 の全高に亘って突設されている。したがって、凸部 5 1 がガイド壁部 4 2 間に挿入されて摺動する際には、その凸部 5 1 の略円弧状の先端だけが上ケース 1 6 内面及び下ケース 1 8 内面に接するので線接触となり、かつ、ガイド壁部 4 2 の互に対向しているガイド面に対しては、突起の略円弧状等の先端だけが接するので、同様に線接触となる。

【 0 0 3 4 】

これにより、上下の凸部 5 1 と、ガイド壁部 4 1 及びガイド壁部 4 2 間の上ケース 1 6 内面及び下ケース 1 8 内面並びにガイド壁部 4 1 及びガイド壁部 4 2 のガイド面との摺動抵抗（摩擦）を低減することができ、ドア 5 0 を抵抗少なく、スムーズに摺動させることが可能となる構成である。なお、凸部 5 1 が平面視略楕円形状に形成されていると、例えば平面視略円形状に形成されているものよりも耐衝撃性に優れるため、落下等の衝撃によってドア 5 0 に開閉方向以外からの力が加えられても、その凸部 5 1 が折れるような心配はない。

【 0 0 3 5 】

また、ドア 5 0 の長手方向中央部よりも若干前方（ドア 5 0 の板幅が異なる境界部分近傍）における外周面には、操作部としての操作突起 5 2 がドア 5 0 の径方向に沿って突設されている。操作突起 5 2 は、スリット 4 0 からケース 1 2 の外側に露出されるようになっており、開口 2 0 の閉塞状態ではビスボス 3 6 の後端から僅かに離間して位置するとともに、スリット 4 0 の前方へ開放された部分から操作可能とされている。そして、開口 2 0 の開放状態では、操作突起 5 2 は、スリット 4 0 の後縁から僅かに離間して位置するようになっており、このとき、ガイド壁部 4 2 の後端部に最後端側の凸部 5 1 が当接している。

【 0 0 3 6 】

なお、操作突起 5 2 露出用のスリット 4 0 によってケース 1 2 の内外が連通されるが、このスリット 4 0 はビスボス 3 6 と、ケース 1 2 内の略全高に亘るドア 5 0 とによって常時ほぼ閉塞され、かつ、内壁としての遊動規制壁 2 8 によって、リール 1 4 に巻装された磁気テープ T への塵埃等の付着が防止されるようになっている。

【 0 0 3 7 】

また、ドア 5 0 の前端部内面には、開口 2 0 閉塞時において、リーダーピン 2 2 の上端部側面及び下端部側面（後述する円板部 2 2 E）に当接するストッパー 5 8 が突設されており、落下衝撃等によってリーダーピン 2 2 が、後述するピン保持部 2 4 から脱落するのを、より一層防止できるようになっている。そして、ドア 5 0 を開口 2 0 閉塞方向へ付勢する付勢部材としてのコイルばね 5 6 は、ド

ア 5 0 が開口 2 0 の閉塞状態でケース 1 2 の右後角部に至る長さであるため、右後角部における遊動規制壁 2 8 と右壁 1 2 B（周壁 1 6 A、1 8 A）との間の空間を有効利用して配設されている。

【 0 0 3 8 】

すなわち、ドア 5 0 の後端近傍の内周面には、背面視略 L 字状のばね保持部 5 4 が上方に向かって一体的に突設され、下ケース 1 8 の凹部 4 8 近傍の内面には、円柱状のばね係止部 5 5 が上方に向かって突設されている。そして、コイルばね 5 6 の両端にはリング状の取付部 5 6 A、5 6 B がそれぞれ形成されている。したがって、コイルばね 5 6 は、その一方の取付部 5 6 B をばね係止部 5 5 に上方から挿入し、他方の取付部 5 6 A をばね保持部 5 4 に上方から挿入することにより、上記した空間内に簡単に取り付けることができる。

【 0 0 3 9 】

また、上ケース 1 6 には、ドア 5 0 の開閉時に、ばね保持部 5 4 の上端が摺接するリブ 5 7 が、平面視略円弧状に立設されている。このリブ 5 7 は、少なくともドア 5 0 が移動（開放）し始める際には、ばね保持部 5 4 の上端が摺接できるような位置及び長さに配設され、コイルばね 5 6 の付勢力に抗して移動するばね保持部 5 4 を好適にガイドすることにより、ドア 5 0 がより安定して開放されるように（開放時にドア 5 0 がコイルばね 5 6 の付勢力によってブレないように）している。

【 0 0 4 0 】

また、落下等による衝撃がケース 1 2 に加えられて、コイルばね 5 6 の取付部 5 6 A がばね保持部 5 4 を上昇してきても、このリブ 5 7 を設けることによって、そのばね保持部 5 4 から外れないようにできる。なお、ばね係止部 5 5 側も、その上端が上ケース 1 6 の遊動規制壁 2 8 とガイド壁部 4 2 との間に挿入されることになるので、同様に、取付部 5 6 B がばね係止部 5 5 から外れるのを防止することができる。

【 0 0 4 1 】

次に、本発明に係るリーダーピン 2 2 及びそのピン保持部 2 4 について説明する。リーダーピン 2 2 は、図 3、図 4 で示すように、磁気テープ T が固着される

固着部 2 2 B と、その固着部 2 2 B の両側で、ドライブ装置の引出手段（フック等）に係止される環状溝 2 2 A と、その環状溝 2 2 A の両側で、後述するピン保持部 2 4 の切り込み 2 4 C に挿入される係止部 2 2 C と、で構成された金属製であり、係止部 2 2 C には、ピン保持部 2 4 の凹部 2 4 A、2 4 B 間の肉薄部 2 4 D が挿入される環状溝 2 2 D と、後述する係止ばね 2 5 が当接する円板部 2 2 E が備えられている。

【 0 0 4 2 】

一方、ケース 1 2 の開口 2 0 近傍の天面（上ケース 1 6 の内面）及び底面（下ケース 1 8 の内面）には、ケース 1 2 内においてリーダーピン 2 2 を位置決め、保持する上下一対のピン保持部 2 4 が設けられている。このピン保持部 2 4 は、図 3 で示すように、磁気テープ T の引き出し側が開放された略半円筒形状をしており、その内側は凹部 2 4 A とされている。なお、このピン保持部 2 4 は、内側のガイド壁部 4 2 と一体になるように連設されているが、ピン保持部 2 4 の高さは、一体に連設されたガイド壁部 4 2 の高さと同様か、それよりも高く形成されていることが望ましい。

【 0 0 4 3 】

また、その凹部 2 4 A と表裏対応するケース 1 2 の外面（上ケース 1 6 の外面及び下ケース 1 8 の外面）側には、凹部 2 4 A と略同形状か、それより若干小さな凹部 2 4 B が形成されている。この凹部 2 4 B の深さは、リーダーピン 2 2 をケース 1 2 に係止保持させたときに、そのリーダーピン 2 2 の上下端が、側面視でケース 1 2 の外面より突出しない深さになっていることが好ましく、具体的には、係止部 2 2 C の環状溝 2 2 D よりも外側の部分の厚さと略同じ深さになっている。したがって、リーダーピン 2 2 全体の長さはケース 1 2 の高さと同様になっている。

【 0 0 4 4 】

また、その凹部 2 4 A、2 4 B の略中央から開口 2 0 に向かって細長い切り込み 2 4 C が設けられている。この切り込み 2 4 C は、凹部 2 4 A、2 4 B 間の肉薄部 2 4 D がリーダーピン 2 2 の環状溝 2 2 D 内へ挿入できるようにするためのものであって、リーダーピン 2 2 の環状溝 2 2 D の底部（軸部）を回避する許容

部となっている。したがって、切り込み24Cの幅は、その底部（軸部）の径と略同一（同一か、それよりも若干大きめ）になっており、かつ、環状溝22Dの幅（間隔）は、凹部24A、24B間の肉薄部24Dの厚さと略同一（同一か、それよりも若干大きめ）になっている。

【0045】

リーダーピン22及びピン保持部24は、以上のような構成になっており、直立状態のリーダーピン22は、その両端の係止部22Cに形成された環状溝22Dが、ピン保持部24の凹部24A、24B間の肉薄部24Dに、その開放側から出入可能に嵌入されることによってケース12に係止保持される。したがって、リーダーピン22は、図4で示すように、上ケース16と下ケース18とを接合するように架設された支持連結部材として機能するようになっており、これによって、ケース12の強度を向上させることができる。

【0046】

すなわち、ケース12の開口20部分が、従来のように（図10（B）で示すように）、落下時の衝撃によって上下外方側に向かって撓み変形しようとしても、そのケース12の開口20部分には、リーダーピン22が、上ケース16と下ケース18とを接合するように架設されているので、その撓み変形をリーダーピン22で抑制することができる。したがって、ケース12の破損を抑制できるとともに、リーダーピン22がピン保持部24から脱落するのを防止することができる。

【0047】

なお、切り込み24Cを設けることによって、開口20付近にケース12の内外を連通させる隙間ができるが、この切り込み24Cの凹部24A側には、上記したストッパー58が位置することになるので、保管時等の不使用時において、その切り込み24Cによる隙間はストッパー58により常時閉塞される。したがって、リール14に巻装された磁気テープTへの塵埃等の付着は防止される。

【0048】

また、この記録テープカートリッジ10にあっては、リーダーピン22がピン保持部24から更に脱落しないように押さえる係止ばね25が、ピン保持部24

(開口 2 0) の近傍に配置されている。この係止ばね 2 5 は、金属板を屈曲成形した板ばね状であり、図 2 で示すように、前壁 1 2 A (周壁 1 6 A、1 8 A のうち、外面が矢印 A 方向を向く部分) 及び開口 2 0 近傍のケース 1 2 内面に設けられた溝部 2 3 内に、その上下辺縁部がそれぞれ挿入されるとともに、上下一対のばね保持部 2 7 によって、その基部 2 5 A が保持されるようになっている。

【 0 0 4 9 】

そして、二股状の作用部 2 5 B の先端がリーダーピン 2 2 の環状溝 2 2 A、2 2 D 間の円板部 2 2 E に当接して、それをピン保持部 2 4 内側へ押圧することにより、リーダーピン 2 2 がピン保持部 2 4 から脱落しないように、更に強固に保持するようになっている。なお、リーダーピン 2 2 がピン保持部 2 4 の凹部 2 4 A、2 4 B 内に出入する際には、係止ばね 2 5 の作用部 2 5 B が適宜弾性変形して、リーダーピン 2 2 の移動を許容する構成である。

【 0 0 5 0 】

次に、本実施の形態の作用について説明する。上記構成の記録テープカートリッジ 1 0 では、不使用時 (保管時や運搬時等) には、開口 2 0 がドア 5 0 によって閉塞されている。具体的には、ドア 5 0 は、コイルばね 5 6 の付勢力によって、常時開口 2 0 閉塞方向へ付勢されており、その先端部 (前端部) が傾斜壁部 3 0 近傍のガイド壁部 4 1 に入り込む状態で開口 2 0 を閉塞している。なお、このとき、ドア 5 0 のストッパー 5 8 により切り込み 2 4 C の隙間が閉塞されるので、記録テープカートリッジ 1 0 における防塵性は確保されている。

【 0 0 5 1 】

一方、磁気テープ T を使用する際には、記録テープカートリッジ 1 0 を矢印 A 方向に沿ってドライブ装置へ装填する。この装填に伴って、ドライブ装置の開閉手段を構成する開閉部材 (図示省略) が、前方へ開放しているスリット 4 0 に進入し、ドア 5 0 の操作突起 5 2 に係合する。この状態で、記録テープカートリッジ 1 0 (ケース 1 2) を更に押し込むと、この押し込み力によってコイルばね 5 6 の付勢力に抗しつつ、開閉部材が操作突起 5 2 を後方へ移動させる (矢印 A 方向へ装填されるケース 1 2 に対して後方へ相対移動させる)。

【 0 0 5 2 】

すると、その操作突起 5 2 が突設されているドア 5 0 は、凸部 5 1 がガイド壁部 4 2 によって案内され、ばね保持部 5 4 がリブ 5 7 によって案内されつつ、その湾曲方向に沿って平面視時計方向に回転する。すなわち、ドア 5 0 は、ガイド壁部 4 2 によって、その湾曲形状に沿った移動軌跡からはみ出すことなく、ピン保持部 2 4 及びリール 1 4 の外側を回り込むように略後方へ移動し、開口 2 0 を開放する。そして、ケース 1 2 (記録テープカートリッジ 1 0) がドライブ装置に所定深さ装填されると、開口 2 0 が完全に開放される。

【 0 0 5 3 】

こうして開口 2 0 が開放された状態で記録テープカートリッジ 1 0 がドライブ装置内で位置決めされると、ドア 5 0 はそれ以上の回転 (略後方への移動) が規制され、開放された開口 2 0 からはドライブ装置の引出手段がケース 1 2 内に進入し、この引出手段がピン保持部 2 4 に位置決め保持されたリーダーピン 2 2 を抜き出す。このとき、引出手段は環状溝 2 2 A に係止され、係止ばね 2 5 の作用部 2 5 B が適宜弾性変形して、リーダーピン 2 2 のピン保持部 2 4 からの抜き出しを許容する。

【 0 0 5 4 】

そして、図示しない巻取リールにリーダーピン 2 2 を収容し、その巻取リールとリール 1 4 とを同期して回転駆動する。すると、磁気テープ T は、巻取リールに巻き取られつつ順次ケース 1 2 から引き出され、所定のテープ経路に沿って配設された記録再生ヘッド等によって情報の記録や再生が行われる。

【 0 0 5 5 】

一方、磁気テープ T がリール 1 4 に巻き戻され、リーダーピン 2 2 がピン保持部 2 4 に保持される際にも係止ばね 2 5 の作用部 2 5 B は適宜弾性変形して、リーダーピン 2 2 のピン保持部 2 4 への進入、即ち環状溝 2 2 D の肉薄部 2 4 D への嵌入を許容する。そして、これにより、係止部 2 2 C が凹部 2 4 A、2 4 B に係止され (円板部 2 2 E がピン保持部 2 4 に係止され)、ケース 1 2 の開口 2 0 近傍にリーダーピン 2 2 が係止保持される。

【 0 0 5 6 】

その後、記録テープカートリッジ 1 0 をドライブ装置から排出する際には、記

録テープカートリッジ 10 に対する位置決め状態が解除され、コイルばね 56 の付勢力又は図示しないイジェクト機構によって矢印 A 方向とは反対方向に移動される。これにより、ドア 50 は、その凸部 51 がガイド壁部 42 に案内されつつ、コイルばね 56 の付勢力によって開口 20 の閉塞方向へ回動し、ドア 50 の先端部（前端部）がガイド壁部 41 内に入り込むことにより、開口 20 が完全に閉塞され、初期状態に復帰する。

【 0 0 5 7 】

ここで、リーダーピン 22 は、上記したように、ピン保持部 24 の凹部 24 A、24 B 間の肉薄部 24 D に、その環状溝 22 D が切り込み 24 C によって許容されて嵌入することにより、開口 20 近傍のケース 12 に係止保持される。このため、リーダーピン 22 は、上ケース 16 と下ケース 18 とを接合するように架設されることになり、その部分の強度を補強することができる。

【 0 0 5 8 】

すなわち、ケース 12 の開口 20 部分に落下等による衝撃が加わり、その部分が上下外方側へ撓み変形しようとしても、上ケース 16 と下ケース 18 にはリーダーピン 22 が架設されていることから、その変形を抑制することができる。また、そのとき、リーダーピン 22 は、係止部 22 C がピン保持部 24 の凹部 24 A、24 B に押圧されて係止保持されるので、リーダーピン 22 のピン保持部からの脱落も防止することができる。

【 0 0 5 9 】

さて、次に、図 5 乃至図 8 で示すピン保持部 24 について説明する。なお、説明の便宜上、リーダーピン以外は上記と同一の符号を付して説明し、作用については上記と略同様なので、その詳しい説明を省略する。このピン保持部 24 は凹部 24 A と切り込み 24 C のみ設けられており、凹部 24 B は設けられていない。そして、リーダーピン 21 は、従来から知られているリーダーピンであり、上記のような係止部 22 C（環状溝 22 D、円板部 22 E）は備えられていない。

【 0 0 6 0 】

この場合のピン保持部 24 は、切り込み 24 C を設けてあることから、その凹部 24 A は、図 8 で示すように、切り込み 24 C の幅方向（前後・左右方向）に

対して撓み変形しやすくなっている。したがって、落下等によって開口 2 0 付近に前後・左右方向へ衝撃を受けた場合には、その衝撃力を切り込み 2 4 C 部分の撓み変形によって吸収することができる。したがって、ケース 1 2 の他の部分における撓み変形や破損を抑制することができる。

【 0 0 6 1 】

しかも、このときの切り込み 2 4 C 部分の撓み変形は、図 8 (B) の矢印 F で示すように、切り込み 2 4 C の幅を狭くするような変形になるので、リーダーピン 2 1 の両端部 2 1 A は、ピン保持部 2 4 に抱え込まれるように、その周面が押圧されて保持されることになる。したがって、リーダーピン 2 1 のピン保持部 2 4 からの脱落が抑止される。なお、このような切り込み 2 4 C は、落下吸収用としてのみ利用する場合、その配設位置はピン保持部 2 4 の凹部 2 4 A 内に限定されるものではない。ただし、ピン保持部 2 4 の凹部 2 4 A 内に設けると、上記したようにリーダーピン 2 1 の脱落を抑止できるので好ましい。

【 0 0 6 2 】

このように、凹部 2 4 B や係止部 2 2 C (環状溝 2 2 D、円板部 2 2 E) が設けられていなくても、切り込み 2 4 C が設けられていることから、前後・左右方向に対する落下衝撃力をその切り込み 2 4 C 部分の撓み変形で吸収することが可能となるので、ケース 1 2 の他の部分における撓み変形を抑制することができる。しかも、このときの切り込み 2 4 C 部分の撓み変形は、リーダーピン 2 1 の両端部 2 1 A をピン保持部 2 4 で抱き込むような撓み変形となるので、リーダーピン 2 1 のピン保持部 2 4 からの脱落を抑止することができる。

【 0 0 6 3 】

【発明の効果】

以上、何れにしても本発明によれば、リーダーピンは、開口からピン保持部に向かって設けられた切り込みに係止部が挿入されて係止保持されることによって、直立状態でケースに架設されるため、落下衝撃等によりケースが上下外方側へ向かって撓み変形するのを、そのリーダーピンによって抑制することができる。したがって、ケースの破損を抑制できるとともに、リーダーピンのピン保持部からの脱落を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

記録テープカートリッジの概略斜視図

【図 2】

記録テープカートリッジの概略分解斜視図

【図 3】

開口付近の様子を示す概略拡大斜視図

【図 4】

リーダーピンがケースに保持されている状態を示す概略側断面図

【図 5】

別実施例の開口付近の様子を示す概略拡大斜視図

【図 6】

同上のリーダーピンがケースに保持されている状態を示す概略側断面図

【図 7】

同上のリーダーピンがケースに保持されている状態を示す概略側断面図

【図 8】

落下衝撃によりケースが変形する様子を示す概略説明図

【図 9】

従来の記録テープカートリッジの概略分解斜視図

【図 1 0】

落下衝撃により従来のケースが変形する様子を示す概略説明図

【符号の説明】

1 0 記録テープカートリッジ

1 2 ケース

1 4 リール

2 0 開口

2 2 リーダーピン

2 2 A 環状溝

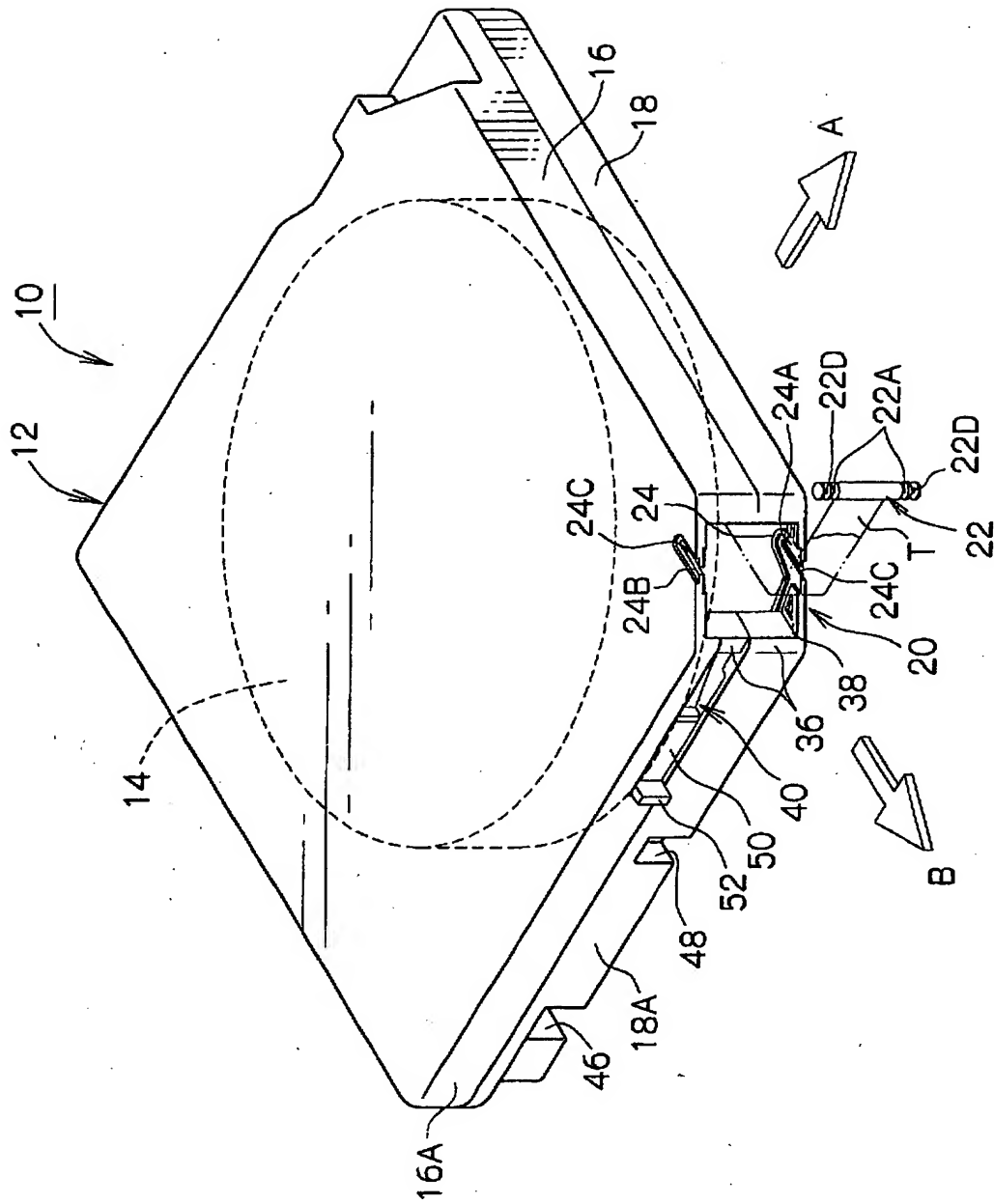
2 2 B 固着部

- 2 2 C 係止部
- 2 2 D 環状溝
- 2 2 E 円板部
- 2 4 ピン保持部
- 2 4 A 凹部
- 2 4 B 凹部
- 2 4 C 切り込み
- 2 4 D 肉薄部

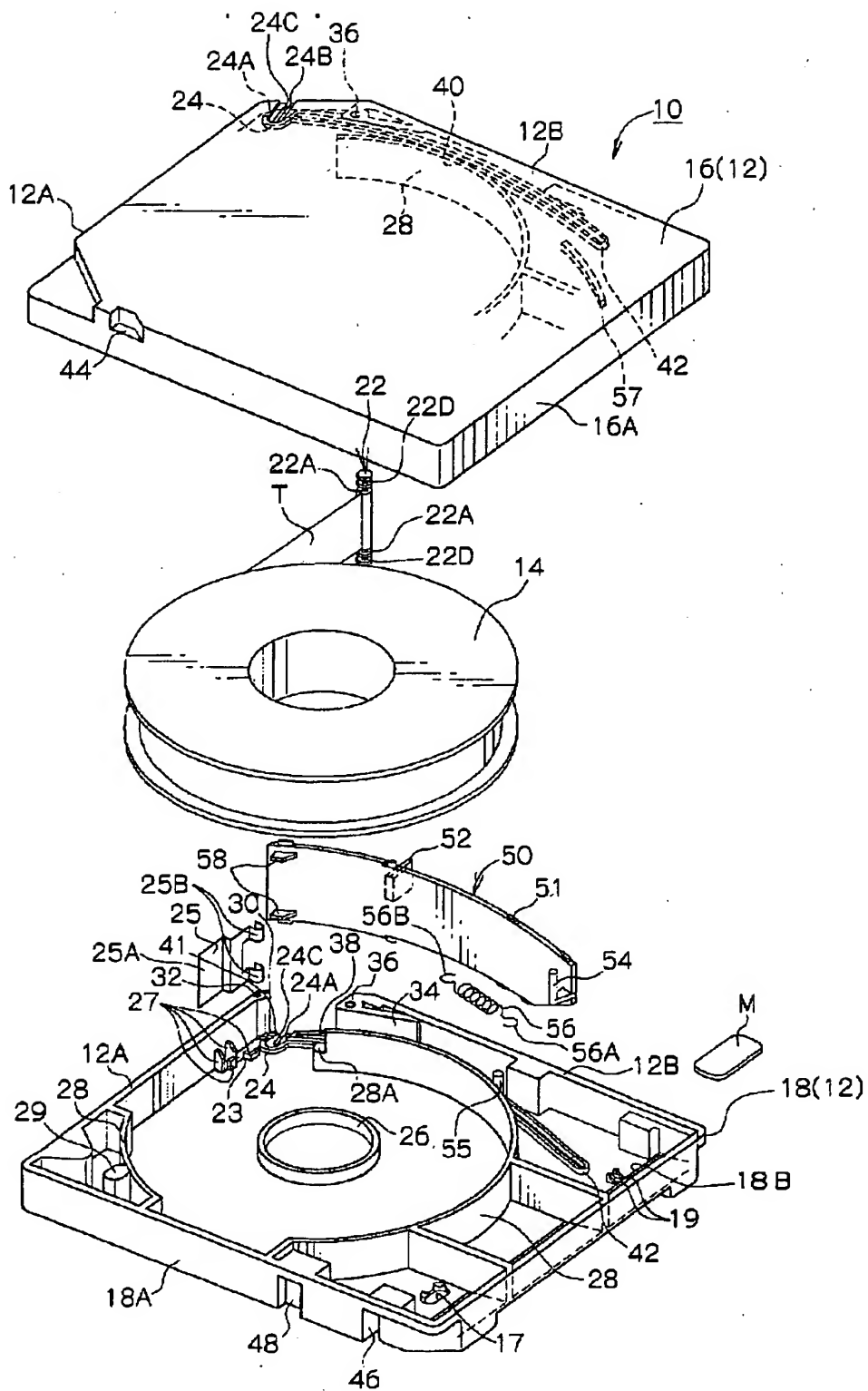
【書類名】

図面

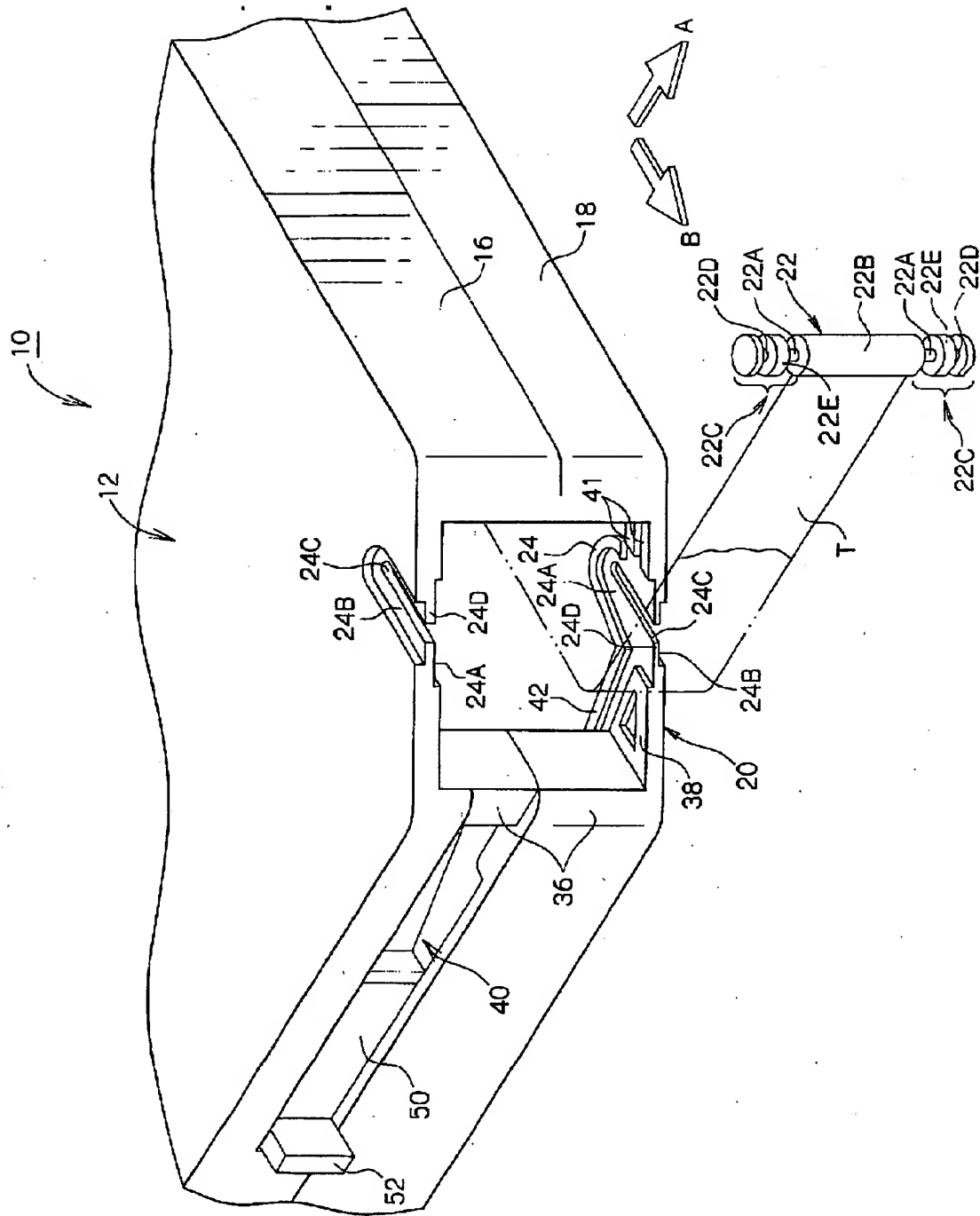
【図 1】



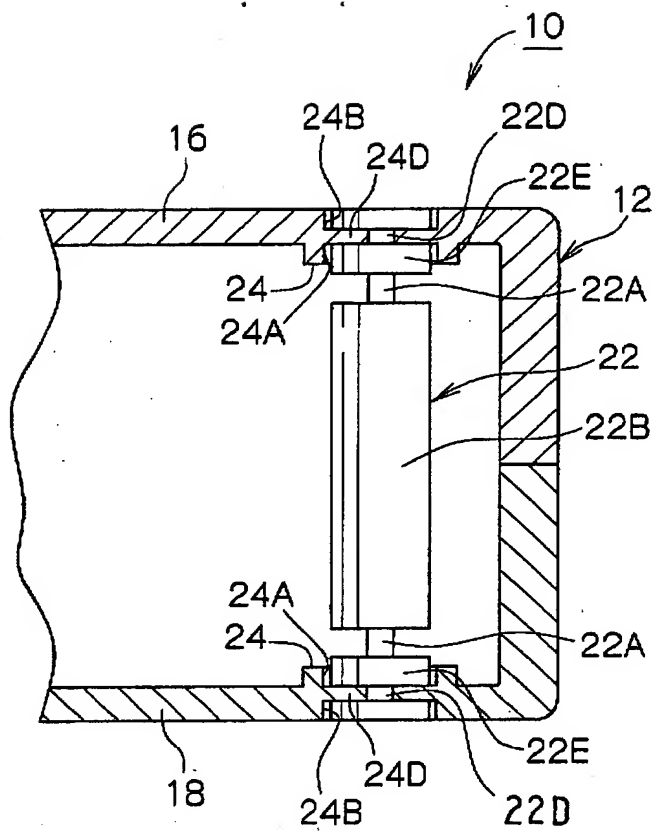
【図 2】



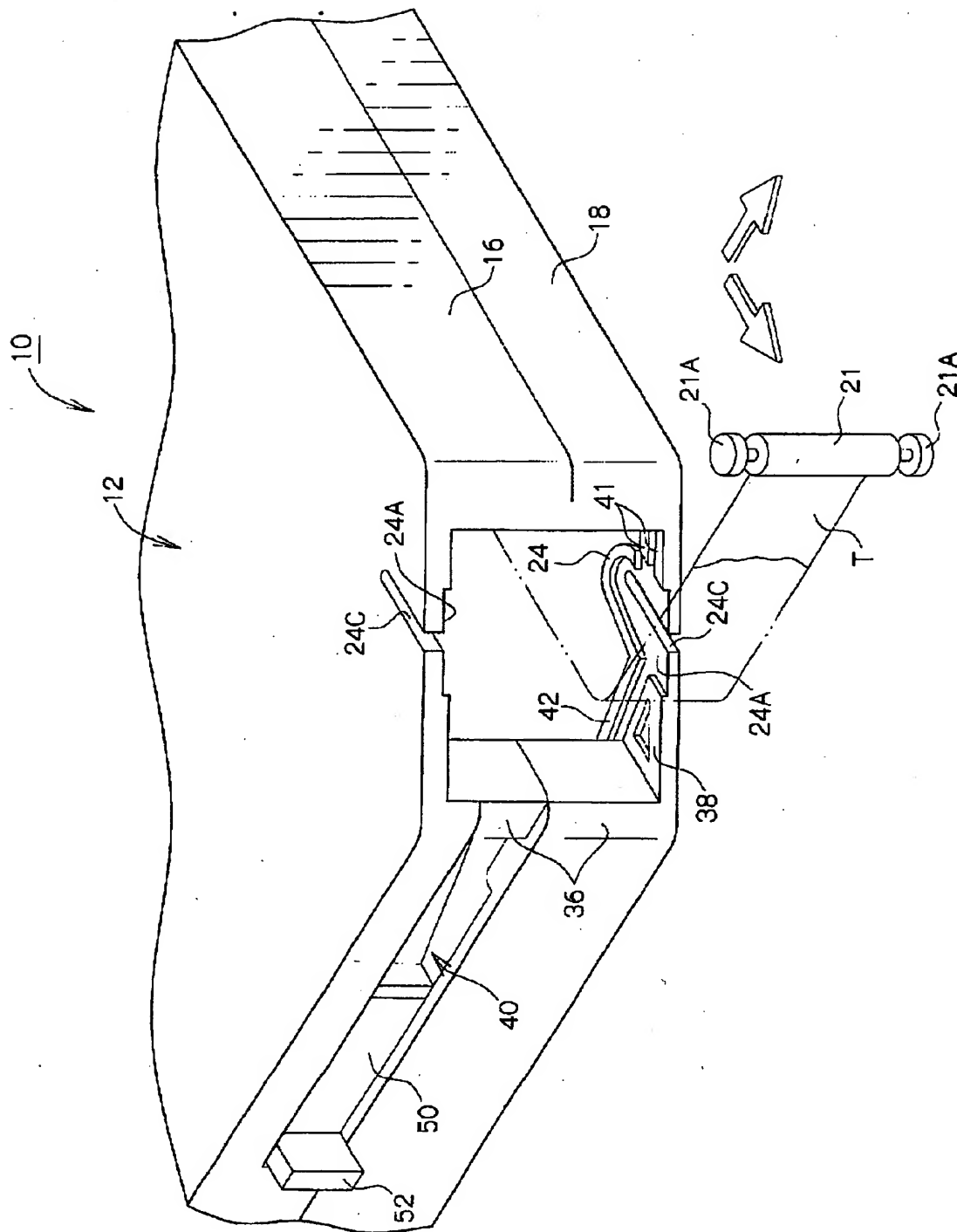
【図3】



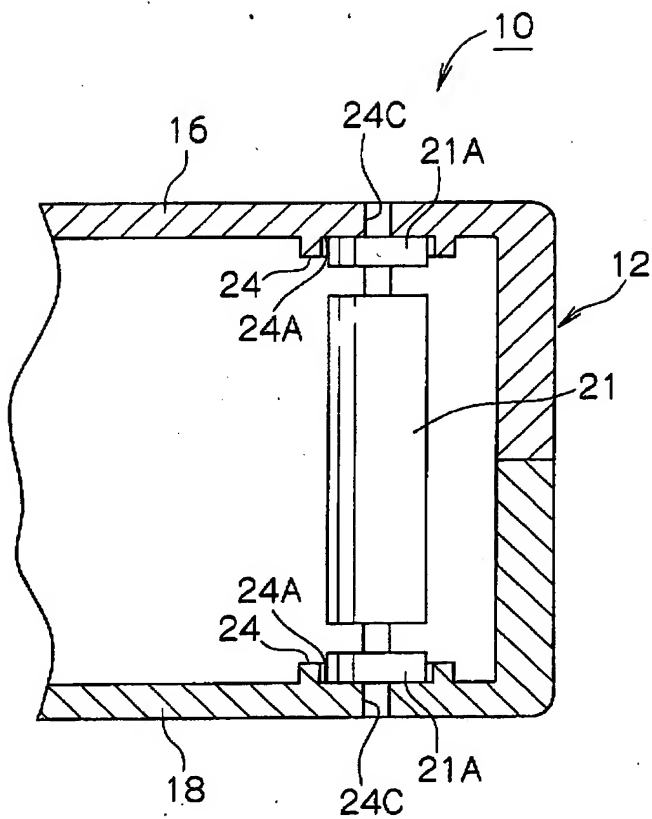
【図4】



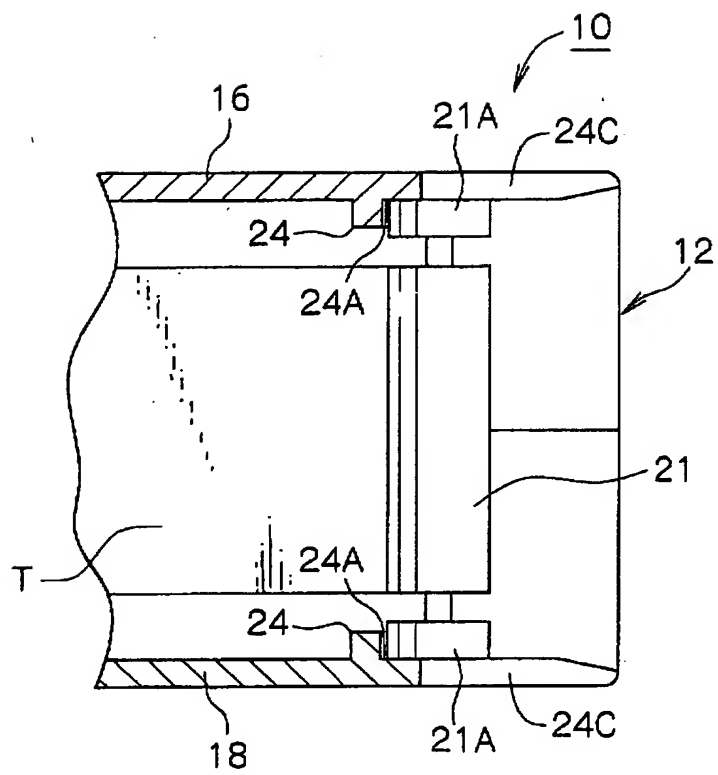
【図5】



【図6】

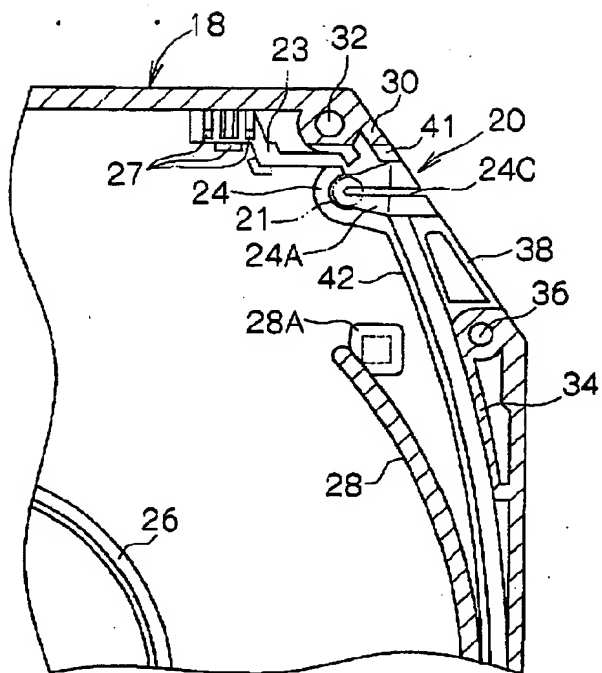


【図 7】

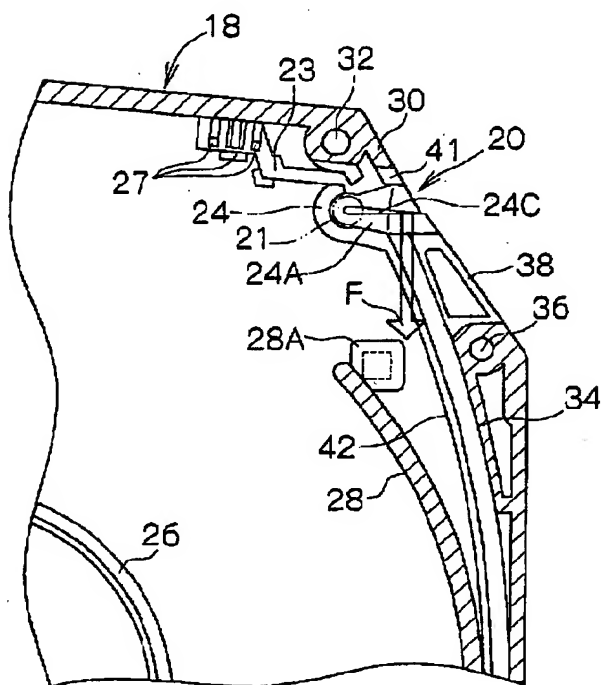


【図 8】

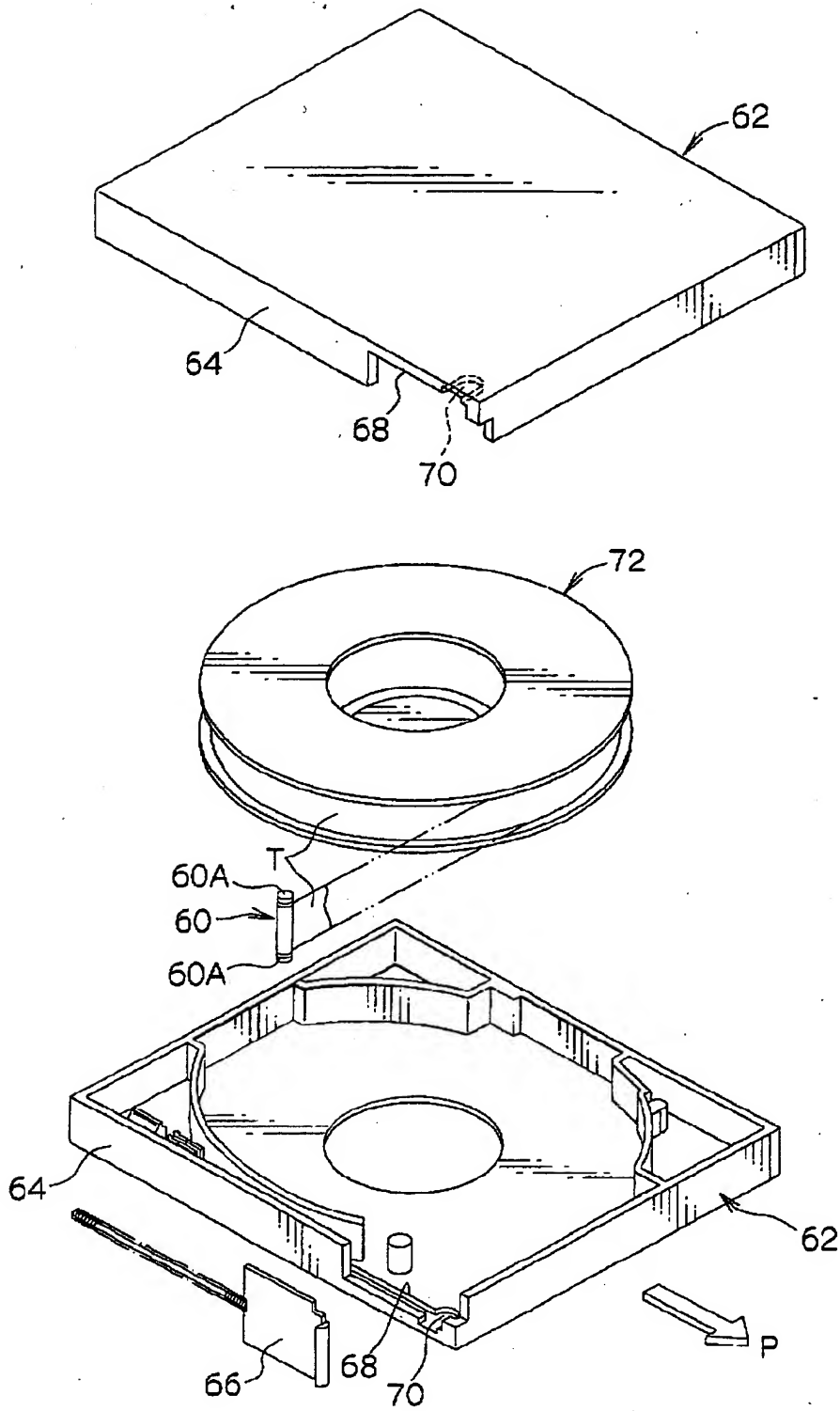
(A)



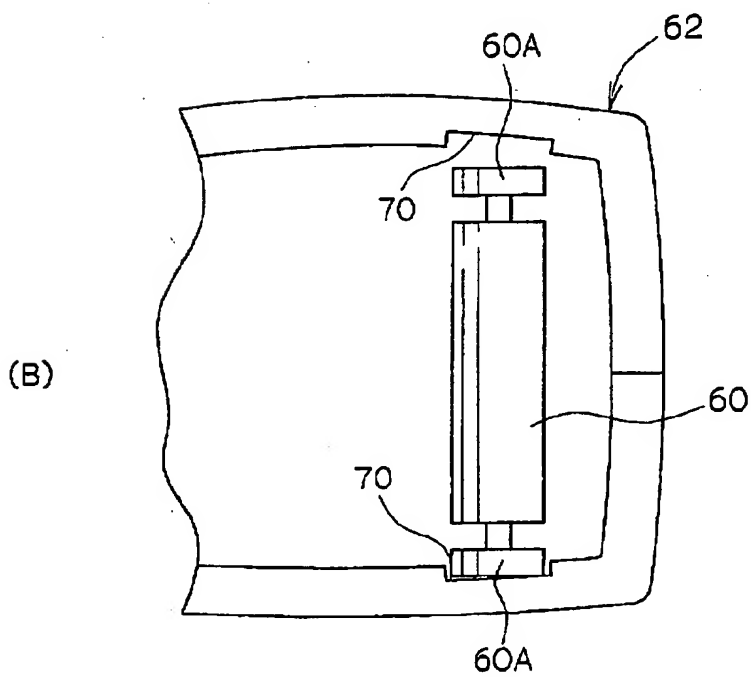
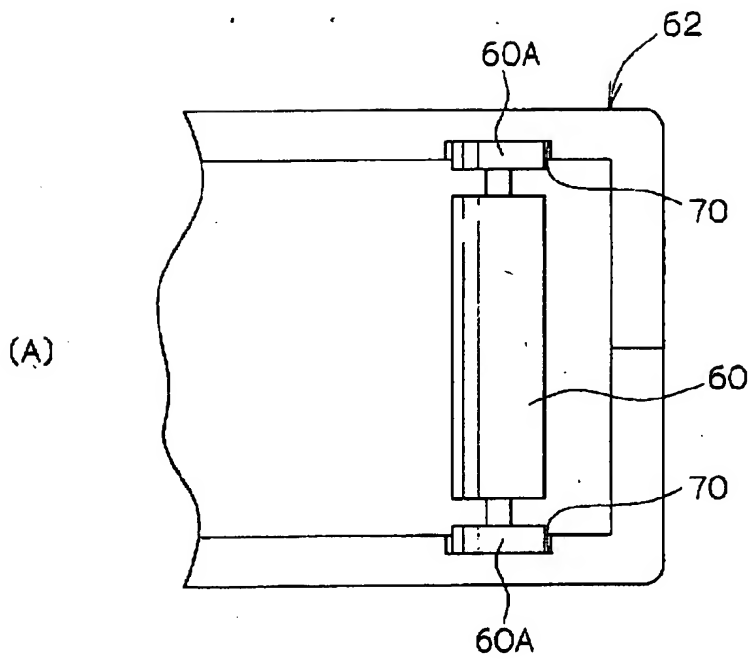
(B)



【図9】



【図 10】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 落下衝撃によるリーダーピンのピン保持部からの脱落を防止できるようにした記録テープカートリッジの提供を課題とする。

【解決手段】 記録テープTが巻装された単一のリール14を回転可能に収容するケース12と、ケース12の側壁に形成され、記録テープTの端部に取り付けられたリーダーピン22を引き出すための開口20と、ケース12の天面及び底面に形成され、開口20の近傍でリーダーピン22を保持するピン保持部24と、を備えた記録テープカートリッジ10において、開口20からピン保持部24に向かって切り込み24Cを設けるとともに、リーダーピン22の両端部に、その切り込み24Cに挿入される係止部22Cを設ける。

【選択図】 図3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005201]

1. 変更年月日	1990年 8月14日
[変更理由]	新規登録
住 所	神奈川県南足柄市中沼210番地
氏 名	富士写真フイルム株式会社